



だより



R7.11.4 Vol.26

おばちゃん

職員との雑談。「最近、おばちゃんって言葉あんまり聞きませんよね?」「そうですねえ。」「私が子供の頃は〇〇くんのおばちゃん! って言ってたんですが…。」「最近では〇〇君のお母さんとか〇〇さんとか名前で呼んでいる子が多いですよ。」

おばちゃんってネガティブなイメージが強いんですかね? どう見られたいのか? そんな気持ちも関係しているのでしょうか? 「雅人おっちゃん! 」と甥っ子姪っ子に呼ばれ始めた頃は、俺も大人になった! と私は嬉しかったのですが、その辺が女心の機微なののでしょうか。あまり追及すると「校長先生! 嫌われますよ! 」と言われそうなので、別の話題にしました…。(笑) ある女の子がもっと褒めて下さいと言ってきたので、褒めると「もう遅いです…もういいです。」やっぱり難しい…。トホホ

観劇後…

先日の人権参観日、今年の講演会は「ほっかむりひょう六」という人形劇でした。さてその劇中、影絵のような演出がありました。光と影だけで時間の経過やひょう六とソメコの関係を描写しており、素敵な演出だなと思いました。今はビデオプロジェクターで画像や動画を映し出すこともできますが、あえてアナログ的な手法をとることでそれぞれの心にある想いや想像力に訴えかけていたような気がします。

公演後、演者の方と校長室で少し雑談をしたのですが、公演を重ねていくと少しずつ、登場人物も性格や考え方が変わっていくのだそうです。何十年も経つと人形の顔も変わって見える。そんなこともおっシャっていました。時と共に変わっていく。アナログの良さだなあと感じました。



四方山話真穴 ver2. 其の二十六(家庭教育)

先日、八幡浜市の理科部会の研究授業公開が本校でありました。授業の中で、砂糖や塩をスプーンですりきり一杯とり、重さを量る活動があったのですが、子供たち、なかなかうまくすりきれません。もちろん、この後、実験・観察の中でそういった操作にも慣れていくのですが…。

今の子供たち、学校が終わると、スポーツを含めた習い事、土日にも練習試合や大会! と、とても多忙な毎日を送っています。自由時間はスマホやゲーム機で動画やゲーム。外で自然に触れる時間がなくなっていることは言わずもがな、家事や料理を手伝ったり、自分でお菓子を作ったり、そんな時間もほぼないのではないのでしょうか? 時代と社会がそうになってきています。ある意味、仕方がないことだとも思います。一歳を過ぎた孫を見ていると、目の前に落ちている小さなものを指で掴もうとしたり、ボールを投げようとしたりを盛んにし始めました。しかし、当然ですが非常におぼつかない動きです。しかしその繰り返しの中で生活していくために必要な身体操作を身に付けていくのだと思います。そしてその延長に小学校では、定規を使って線を引く、ハサミで切り取る、実験をする、料理をする等々、そんな活動があります。日々の生活の中で身に付けていく能力ですね。そんな活動を家で子供と共にやってみる。例えば、一緒に料理をすることで、包丁の使い方、計量スプーンの使い方、火や沸騰したお湯の熱さ、そこに潜む危険、本当に様々なことを学んでいきます。

習い事が悪いわけでは決してありません。そこでの学びもとても大切なものです。ただ日々の生活の中での体験・経験は必ず学校での学びにもつながりますし、それがまた生活に返っていきます。様々な角度から子供たちの「生きる力」を育てていってやりたいですね。

----- 切り取り線 -----

便りの感想や学校への要望等ありましたら、お聞かせください。今後の学校経営・運営に役立てていきたいと思っています。